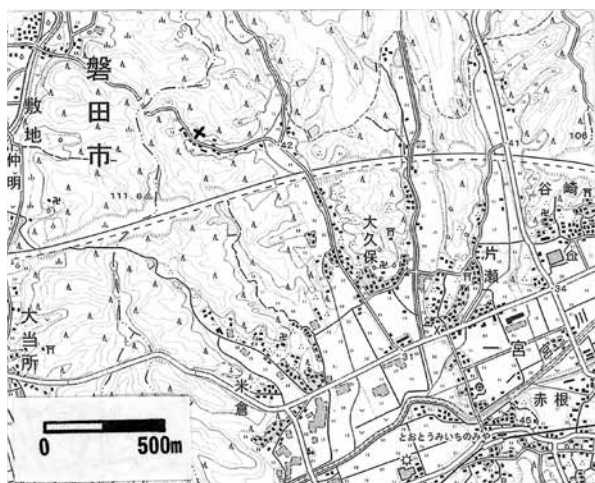


W018 森町大久保のハンモック状斜交成層



露頭位置図

国土地理院 1:25,000 山梨

森町大久保の掛川層群大日層の露頭では、典型的なハンモック状斜交成層を観察できる。露頭の南東側では波長8m、波高0.6mのハンモック状斜交成層、北西側では波長10m、波高0.7mのハンモック状斜交成層が観察できる。ハンモック状斜交成層の葉理にそって細礫～中礫、貝殻の溶けた跡が並んでいる。また、径10cm前後の大礫や径2～5cm、長さ10～15cmの管状生痕を観察できる。ハンモック状斜交成層は、暴風時波浪限界（水深50～80m）から静穏時波浪限界（水深15～30m）の堆積環境を示す示相堆積構造であり、ストーム堆積物認定の際の重要な特徴とされている。（白井久雄）